

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	英語B	担当教員	野々村咲子		
学年学科	1年 MED 学科	通年	必修	2 単位	
学習・教育目標	(C-2)100%				
<b>授業の目標と期待される効果:</b>  中学校で学習した英文法を復習するとともに、英語の読み・書きに必要な基本英文法の定着を目指す。そして、基礎的な語彙や文法を理解した上で、自分の表現したい内容を英語にする力を育成することを目標とする。高専生として、英語力をつけていくための基礎基本となるものであり毎時間を大切に取り組んでほしい。  ①英文法の知識を深める。 ②語彙を増やす。 ③基礎的な英文を読解する。 ④基礎的な英文を書く。 ⑤基礎的な英文を発音する。		<b>成績評価の方法:</b>  前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋小テスト・課題 100 点 後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋小テスト・課題 100 点 学年：前期・後期の重みを等しくして合計し、得点率 (%) で成績をつける。  <b>達成度評価の基準:</b> 以下の項目に関する教科書レベルの試験・課題の総合点が 60%以上に達すれば合格とする。  ①課題指定された範囲の文法の知識がある ②課題指定された範囲の語彙力がある ③課題指定された範囲の英文読解力がある ④課題指定された範囲の英語作文力がある ⑤課題指定された範囲の英語の発音ができる			
授業の進め方とアドバイス：授業では、教科書と参考書に沿って文法事項を学習する。授業には必ず英和辞書を持参すること。指示された予習は必ず行い、わからない単語は辞書で調べてから授業に臨むこと。各授業の復習を欠かさず行い理解できていない点は、後回しにせずその都度教員に質問するようにして、理解と定着に努めること。毎時間、「英語力がついた」と実感できるよう積極性を持って授業に参加してほしい。					
教科書および参考書：高校総合英語 Zoom 総合英語 New Edition, Zoom English Grammar [27Lessons] Zoom English Grammar 27Lessons WORKBOOK, able 例文活用ドリル<文法から表現へ> (いずれも第一学習社)					
授業の概要と予定:前期					ALのレベル
第 1回:オリエンテーション、いろいろな文(1)					
第 2回:いろいろな文(2)					B
第 3回:文の型(1)					B
第 4回:文の型(2)					B
第 5回:現在・過去・未来					B
第 6回:現在完了形					B
第 7回:過去完了形					B
第 8回:中間試験					
第 9回:未来の表現					B
第10回:助動詞(1)					B
第11回:助動詞(2)					B
第12回:受動態(1)					B
第13回:受動態(2)					B
第14回:不定詞(1)					B
期末試験					
第15回:不定詞(2)					B

授業の概要と予定:後期	ALのレベル
第16回:不定詞(3)	B
第17回:不定詞(4)	
第18回:動名詞(1)	B
第19回:動名詞(2)	B
第20回:分詞(1)	B
第21回:分詞(2)	B
第22回:比較(1)	B
第23回:中間試験	
第24回:比較(2)	B
第25回:関係詞(1)	B
第26回:関係詞(2)	B
第27回:関係詞(3)	B
第28回:仮定法(1)	B
第29回:仮定法(2)	B
期末試験	
第30回:2年生へ向けて、振り返りとまとめ	B

評価(ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	語彙力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	語彙力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	語彙力に関する問題を6割以上解くことができない
②	文法知識に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法知識に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法知識に関する問題を6割以上解くことができない
③	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題を6割以上解くことができない
④	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題を6割以上解くことができない